

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第113号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語

VOL. 113

ある瀟洒な病院

柳沢病院

昭和30年代後半か

本町・七飯駅前



一見すると、豪邸にも見えるこの瀟洒な建物。実は七飯駅前にあった柳沢病院を写したものである。何棟か繋げたような造りは、特徴的な三角屋根と引き上げ式の窓、その窓の棧も、よく見るとただの格子だけではなく、趣向を凝らしたデザインがみられ、ちょっとした洋館のようにも見える。現存していれば、建築的にも文化財としての価値も見出せるのだが、残念ながら、もう見る事が出来ない建物である。

写真が撮られた年代は、右下に「七飯町柳沢病院全景」と記されていることから、七飯村から町へと昇格した後の昭和32年以降であることがわかる。また、自転車やバイクの形から、昭和30年代後半位までと推測している。

院長らしい男性と、白衣に身を包んだ看護師、事務の方なのだろうか、和服と洋服姿の女性が病院前で整列することなく、控えめな視線をカメラに送っている。かたくるしくない記念撮影といったところだろうか。

建物がなくなってしまうと、街並みがガラっとかわり、だんだんに記憶がうすれ、今ある風景になれてしまうのだが、こういった写真があるおかげで、失われかけたひと昔前の姿を思い出させてくれる。

さて、この柳沢病院だが、昭和48年に閉院したというのだから、お世話になったという町民の方も、まだ多いことだろう。しかも明治36年に開院したというのだから、長きにわたって町医者として、ななえの人々の病や怪我を癒してきた、七飯でも指折りの由緒ある病院だったといえる。

また、2代目の院長と伝えられる柳沢弘一郎は、大正6年に開業し、健康保険の創始に努めた人物で、昭和5年から34年まで七飯町の学校医として、子どもたちの健康を見守ったほか、大正6年から三期にわたって村議会議員を歴任したり、昭和33年からは七飯町長として在職したりと、医師としてだけでなく、町民の健康管理や教育施設整備など、福祉向上のために尽力した。

現在、公の病院よりも個人病院が多くなっている。町の医療史を語る上で、公立病院はともかく、こういった病院の存在を伝える資料が少ない。柳沢病院にしる、開院当初の写真や記録が当館に残されていないのが残念であり、当館で行っている資料収集における課題ともなっている。瀟洒な建物とともに歴史から消え去らないように、皆さまの記憶をご教示頂きたい。

25日

今年度のジュニア探検クラブが始まりました。町内の小学生5・6年生を対象に、一年を通して、様々なプログラムを経験します。初めに会員証を館長からもらい、自己紹介や注意事項などを話したあとは、小枝を使ったキーホルダー作り。細かい作業でしたが、上手に仕上がりました。その後は館内の見学。少しずつ慣れてきた子ども達と標本や剥製など普段はなかなか見ることがない資料も紹介しました。今月は大沼で水の生き物を調べに行きます。どんな発見があるかな。



6月の予定

1	木	新収蔵資料展
2	金	
3	土	
4	日	星空観察会
5	月	↓
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	夜の博物館
15	木	
16	金	
17	土	ジュニア探検クラブ
18	日	↓
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	

新収蔵資料展のご案内



開催中の「新収蔵資料展」の見どころをご紹介します。「ななえのキロク」では、七飯村広報や鳥瞰図など少し前の七飯を垣間見ることができます。また、「暮らしの道具」では、昭和28年に発売された東芝の洗濯機、そして奥のコーナーでは、1967年からの「暮らしの手帖」があります。郷土の歴史を感じ、生活に必要なものの変遷を見ることができる今回の展示、是非ご覧下さい。

男爵薯発祥の地

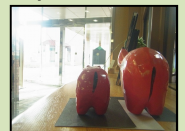
町内鳴川地区にある「男爵薯発祥の地」の記念碑をご存知でしょうか？国道5号線沿いに佇む石碑です。柵の老朽化に伴い、新しいものに整備しました。明治40年、この地に農場を開いた川田龍吉がイギリスのアイリッシュ・コブラーという品種を輸入し、試作を繰り返した後に誕生した「男爵いも」を記念して作られた碑です。今では当たり前にならされているものが、先人の苦勞の末に「七飯」という地で作られたものと知ると、格別に思いませんか？



6月の休館日はありません

folk toys

事務室のカウンターに飾られている赤ペコは、福島県会津地方の郷土玩具、意外にも小学生が頭をなでています。



編集後記 ~tawagoto~

館の周りにあるカツラの葉が、あっという間に開いた。茶色とも黄色ともとれない新葉が、日を追うごとに緑色へと変化していく様は、毎年眺めていても美しく思う。そして、新たな枝は必ず二股となって展開するのだが、それがまた可愛らしい。

忙しいことを理由に、日々の変化を見逃しがちだが、季節は確実に身の回りで移ろいでいることを、館のカツラが教えてくれている。だから私は、カツラが好きなのである。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Pichari 第113号

平成29年5月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp